

OSS はタダと思われて悩んでいませんか

OSC 名古屋 2019 では来場者が質問を掲示するために展示場入り口付近の掲示板が設置されていました。そこに上がった質問の一つです。

オープンソースソフトウェア (OSS) が無料だと思われているのは皆様がお金を払わずにお使いになるからです。「便利なソフトを見つけた。君も無償も使えるよ」という話は一般人も耳にしています。その便利なソフトを実現するための貢献の話はほとんど聞くことがないので。

ソフトウェアは人造物です。無から生れるものではありません。必ず人が作成しています。お金を払わないで利用するのが一般化、定着してしまうと、少数の者に開発とメンテナンスの負担が集中し、しかも報われない不健全な状態となります。

多数の人が少しずつ貢献して支えるのが健全です。どのような形で貢献するかは、個人個人で自由に決めて良いのです。何をせよと強制されることはありません。儲かっている企業はお金を出し、プログラミングが得意な者はソースコードを提供し、外国語が得意な人は翻訳をするなど、自分に合った貢献の仕方で良いのです。

不具合や利用実例の報告も開発者にとって有益です。どんなに簡単でも感謝の表明は心に響くものです。リーナス・トルバルズ氏が後に有名になるカーネルを開発した当初、フィンランドにインターネットはなく、自宅の電話にモデムをつないでソースコードの要求に応じていました。当時彼は大学生で、家族は電話が使えず不便だったそうですが、世界中から感謝の葉書が届くので「うちのリーナスは何か大事なことをしているのに違いない」と考えました。

「自分の礼状一通では何が変わるだろう」と思われるかもしれませんが。一通の礼状でも、情報技術に詳しくない一般人の認識を変えるのに役立つものです。

今や情報通信技術は広く普及し、誰もがスマートフォンを使っています。一般利用者はどのようなソフトウェアが自分が利用する情報機器や通信サービスを動かしているのか全く知りません。専門の情報技術者は、程度の差はあっても、そう変わらない状況にあると思います。コンパイラやライブラリ無くして開発は不可能ですが、その具体的な構成はあまりよく理解されていません。オープンソースカンファレンスの来場者なら Linux を知っているものですが、OS の中でカーネルが最後に完成した事実を知る者は少数です。具体的な事柄が不明な中では、日頃仕事に使う道具を支えているOSの要素は何なのか、それを作成し提供してくれた善意の技術者が誰であるのか判りません。

礼を考えると、技術の詳細、開発の経緯について学ぶ必要を感じるようになります。記録に残らなかった人もいるので、実はそれでも不十分です。一方で技術史を調査すると興味深い、最初の目的以上の発見があるものです。

何を学ぶにも、礼が重要と昔から言われています。誰もが自由に利用できる高品質のソフトウェアは、教育と協力における礼の意義を考える良い契機になると思います。

2019年7月 漆畑晶

参考資料

論語とコンピュータ

知識の共有は礼に始まる ベル研究所から GNU/Linux まで

https://www.ospn.jp/osc2018-nagoya/pdf/OSC2018_Nagoya_netpbm%202.pdf

何故「論語とコンピュータ」を唱えるのか

他人の自由を尊重して人は本当に自由になる

https://www.ospn.jp/osc2018-shimane/pdf/OSC2018_Shimane_Netpbm.pdf

漸進的情報処理

UNIX の特徴的操作方法

https://www.ospn.jp/osc2019-spring/pdf/OSC2019_TokyoSpring_Netpbm.pdf

ハドソンのソースを訪ねて

ニューヨークセントラル鉄道小史 世界で初めてコンピュータを利用した民間企業

https://www.ospn.jp/osc2018-do/pdf/OSC2018_Hokkaido_Netpbm.pdf